

## 奈良県立大学学術研究員 研究成果報告書

研究課題(和文): 奈良県立大学を活用した文化芸術推進事業のあり方についての考察

研究課題(英文): Consideration on Promotion of Arts and Culture at Nara Prefectural University

研究代表者名: 西尾美也

学術研究員名(所属先):

藤田瑞穂(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA チーフキュレーター/プログラムディレクター)

西尾咲子(奈良県立大学実践型アートマネジメント人材育成プログラム CHISOU プログラムマネージャー)

小林瑠音(神戸大学国際文化学研究推進センター学術研究員)

### 1. 本研究の概略

研究代表者は、これまでゼミ活動等を通じて外部の文化芸術団体やアーティストと協働しながら学内での展覧会やイベントを企画・実施してきた。これらの教育研究には共通して大きく3つの目的があった。それは、「学生がアートプロジェクトの運営方法を学び身につけること」「奈良県立大学を地域に開かれた場所にする」「奈良県立大学を文化芸術の交流・創造拠点にすること」であり、展覧会の企画・実施を通して、奈良県立大学を活用した文化芸術推進事業のあり方を個人の教員レベルで探ってきたと言える。

本研究では、これらの経験を活かし、学術研究員とともに、文化庁の「大学における文化芸術推進事業」(旧・大学を活用した文化芸術推進事業)の補助事業へ応募することを目標に企画を練っていった。当事業は、多彩な芸術文化活動を支える高度な専門性を有したアートマネジメント(文化芸術経営)人材について実践的能力の向上等を含めた養成を推進するため、芸術系大学等による公演・展示等の企画・開催も含めた実践的なカリキュラムの開発・実施を支援するものである。

研究の1年目に企画準備を進め、2年目に目標通りこの事業に採択された。「地域の多層化と共有空間の創造に向けた実践型アートマネジメント人材育成プログラム CHISOU(以下、

CHISOU)」というテーマでカリキュラムを開発し、参加者を募って事業を運営してきた。

### 2. 本研究の内容

CHISOUの目的は、同時代の実験的・先端的・複合的な芸術表現を介して、古来より多文化混濁に富む奈良の多層性を掘り起こし、その一元的な表象のあり方を再考し、地域資源を創造的に活用しながら語りを多声化していくための共有空間を創出するアートマネジメントの技法を受講者が修得することである。

具体的には、地域社会固有の歴史的・社会的・文化的な多層性を緻密に読み解きながら、美術や舞台芸術、音楽などの芸術領域を横断したアートプロジェクトを企画立案・リサーチ・制作・広報・運営・記録・アーカイブするために、多角的・総合的にマネジメントできる人材を育成することを目的として、下記3つのプログラムからなる実践的な学びの場を設けた。

#### ① [読解編] 地域の多層性を読み解くレクチャー

芸術や社会学、地域研究などを専門とする本学教員や研究者に加えて、国内外で芸術文化事業や異文化交流イベントを企画運営してきた実践者を講師として招き、古都奈良に潜む異文化混濁の歴史や、現代の複雑な社会状況について理解を深めつつ、多様な思想や表現を他者と共有する場づくりについて、レクチャーやワークショップを通して学んだ。

#### ② [表現編] アートプロジェクトの企画・制作・運営

多様な人々と協働しながら有形無形の地域資源を活かした活動を行うアーティスト4組(sonihouse、長坂有希、山城大督、ジェームズ・ムリウキ)と共に、約半年間にわたりアートプロジェクトを企画・制作・運営することで、アーティストが実際に行うフィールドリサーチや文献講読、インタビューなどの手法を修得することを目指した。また、美術館や芸術祭でのラーニングプログラムを参照しながら、アートと地域の人々をつなぐ方法について考え、具現化することを試みた。

### ③ [共有編] アートプロジェクトのアーカイブ実践

アーティストによる活動を記録や記憶に残すキュレーターや研究者、それを効果的に視覚化するデザイナー、地域にとって重要な資料や書物を保存・活用する図書館の専門家などを講師として迎え、過去の多様なアーカイブの活用実践について学びながら、時空を超えて伝えるべく、このプログラム全体や受講者各自が携わってきたプロジェクトのアーカイブについて思考を巡らせると共に、多様な記録・編集技術を修得し、本事業のウェブサイトや記録集の制作などのアーカイブを構築した。

### 3. 本研究で明らかにしたこと

本研究は今後も継続・発展させる実践研究のため、ここでは課題点と自己評価、関係者の声をまとめる。

受講者の居住地の内訳をみると、合計 56 名のうち、奈良県が 18 名、大阪や兵庫、滋賀、京都、三重の関西圏が 33 名、その他（愛知・高知）が 5 名だった。県内や奈良近郊に住んでいる受講者の関わりが深まる一方で、電車で数時間かけて来る受講者の心理的な隔たりが生まれるなど、本人のやる気とは別に居住地が影響して、受講者間でプロジェクトへの関わり具合に温度差が少なからず生じたことが課題である。また、中には居住地の距離があったにも関わらず積極的・主体的にプロジェクトに関わり続けた受講者も複数おり、そのような受講者が事業への参加終了後も引き続き当地域の中で活動を持続していけるような仕組みを設計することも課題である。

新型コロナウイルス感染症の流行とともに大学施設内での活動が制限されたこともあり、各アートプロジェクトの経過を発表するワークショップ「CHISOU: ARTISTS' RESEARCH—感覚・生態・時間・変遷—」を下御門商店街の下御門町自治会会所を借りて学外で開催するように急遽変更した。今後も引き続き新型コロナウイルス感染症の影響は避けられないことが予想されるため、そのことをマイナスと捉えるだけでなく、むしろポジテ

ィブに変化を受け入れて、会場での対面式・オンライン式の併用や、学外の民間施設や団体との連携、地域住民の理解促進、プロジェクトや空間の実験的な設計、オンラインを介したプロセスについての情報発信・共有、写真や映像を活用したアーカイブ実践など、積極的に試みていきたい。

[表現編] ラボメンバー受講者で長坂有希とジェームズ・ムリウキのプロジェクトメンバーであった米田陣さんより、「普段の大学の授業では、理論ばかりでアートプロジェクトの実践をする機会がなかなかなかったが、このプログラムではアーティストが創作やリサーチをする現場に立ち会って、アーティストの思考過程を間近で見ることができて、とても貴重だった。この春からは、各地域で芸術祭を企画制作する会社に就職することが決まり、ここで学んだことを仕事の現場に大いに活かしていきたい」という感想をいただいた。

同じく [表現編] ラボメンバー受講者で sonihouse のプロジェクトメンバーであった古江晃也さんより、「受講者としてどこまでプロジェクトに関わっていいものか最初は手探りでしたが、役割をふってもらうことで後半は深く取り組むことができたと思っています。来年度の受講者も多分最初は探り探りの関わりになると思うので、より深く関わってもらうための仕掛けづくりも考えたいと思っています。また、誰のために、何のためにやるのか、公演参加者がどんな状態になればいいのかを、もっとイメージしながら共有しておけばよかったなと感じる。イベント当日までに参加者に地域のことをもっとより良く知ってもらうために、イベントをつくっていくプロセスを発信しても良いのでは」など、プロジェクト実践を踏まえて反省点が見えた上で様々な提案をいただいた。

招聘アーティストからは、「受講者それぞれが重要な役割を担い、プロジェクトを通して連携が深まっていく様子に喜びました。とりわけ全体を把握して統括する役割まで受講者が担ったことがすごく良く、全体を見ながら細やかな声かけをしていただけた。イベント実施後にも振り返りのためのメモを自主的に共同作成したり、次回につながる動きがすでに見えてきているのが頼もしい」という評

価をいただいた。

[表現編]の招聘アーティスト sonihouse が奈良県宇陀市で実施した音楽公演において、協力団体である宇陀市教育委員会の職員より、「これまで宇陀では薬草や伝統文化、工芸、重要伝統的建造物群、城跡など、食や建築物、歴史に着目した文化イベントはたくさん企画されてきたが、『音』に着目した企画は非常に稀で新しいアプローチのあり方を知ることができた。森野旧薬園など非常に価値が高いが余り県外の方々に知られておらず、保存への理解を高めていく必要のある文化財について、広く県外の方や学生に知ってもらいたい機会になった」という意見をいただいた。

[読解編]のゲスト講師であり、レクチャー&ワークショップ会場を提供いただいた清澄の里 粟の三浦雅之さんより、「奈良県立大学の教員が学外で活動や連携をするイメージがあまりなかったが、これからどんどん外に出て、研究やプロジェクト実践など様々な連携を広げていけたらという期待が持てた」という意見をいただいた。

[表現編]の招聘アーティスト山城大督さんのリサーチで訪問した浄教寺の島田春樹住職より、「奈良の良さを知ろうとするのは、奈良以外の人たちであり、奈良にある良いものについて奈良の人が一番知らない。このプログラムを通して、身近にある本当に良い奈良のモノの価値について、奈良の人に知ってもらいたい機会になればありがたい」という感想をいただいた。

#### 4. 本研究の諸成果

[セミナー、シンポジウム等]

西尾美也「超教育学としてのアートプロジェクト—実践型アートマネジメント人材育成事業 CHISOU の取り組みから」奈良県立大学地域創造研究センターキックオフ連続シンポジウム第2回「アフターコロナの大学と地域創造：地域創造からの知的創造」オンライン、2021年

西尾美也「学びの共有空間としてのアート」関西学院大学総合政策学部メディア情報学科・津田睦美研究室、オンライン、2021年

[図書]

西尾咲子・野田智子編『学びの共有空間としてのアート—奈良県立大学「実践型アートマネジメント人材育成プログラム CHISOU」2020年度記録集』（西尾美也監修）奈良県立大学、2021年

[雑誌論文]

西尾美也「学びの共有空間としてのアート—CHISOU はどのように企画されたか？」(pp. 29-63) 奈良県立大学研究季報 第32巻第2号、2021年

[学会発表]

[その他]

奈良県立大学 現代アート展「船／橋 わたす 2019」(展覧会) 奈良県立大学／奈良、2019年

CHISOU: ARTISTS' RESEARCH—感覚・生態・時間・変遷—(展覧会) 下御門町自治会会所／奈良、2021年

#### 5. 外部資金(科研費を含む)事業への申請予定等の今後の展開について

令和3年度、本研究は文化庁から2年目の補助金を獲得し、現在も実践型アートマネジメント人材育成事業を通じて、本学を活用した文化芸術推進事業のあり方について実践的に考察している。令和4年度の募集にも申請中である。